

第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2016年6月11日（土）～12日（日）

@浅草ビューホテル、台東区立浅草公会堂、台東区民会館、東京都立産業貿易センター台東館

ワークショップ 1	
企画名	がんのプライマリケア遺伝診療 - 家族歴の聴取から遺伝カウンセリングにつなげる家族ケア -
日時	2016年6月11日（土） 10:30～12:00
会場	第8会場（台東区民会館 8階 第2会議室）
企画責任者	鳴本敬一郎（浜松医科大学産婦人科家庭医療学講座）
定員	72名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>本ワークショップでは参加者が 1)大腸がんを中心とした“がんの遺伝”について、基本的な知識を習得し、プライマリケア診療の上で何が重要かを知る。2)家系図の正確な記載方法を習得し、日常診療での家族歴の聴取の重要性を理解する。3)遺伝カウンセリングおよび遺伝子診療部の活動の実際を知り、プライマリケアと遺伝医療の連携価値について理解する。ことが目的である。さらにこれらを基盤に、どのようにしてプライマリケアと遺伝医療が連携し、地域で家族をがんから守ることができるか、ブレインストーミング法を用いて議論することも目的としている。</p>	
<p>【概要】</p> <p>プライマリケアの場で、家族歴の聴取は遺伝性疾患の拾い上げという面で遺伝診療の入口といえる。中でも遺伝性大腸癌は、若い年齢から複数の臓器に癌が発症し次の世代にも遺伝するため、聴取された家族歴から遺伝学的背景を正しく理解した上で臓器横断的な家族ケアを始めることが重要になる。しかしながら、遺伝性大腸癌を疑う患者やその家族に遺伝に関してどのように伝えたらよいか、患者家族が抱く遺伝に関する悩みへどのように対応したらよいか、さらに、どの時点でどのように遺伝カウンセリング実施施設の遺伝医療担当者と連携していけばよいか分からないことが多い。本ワークショップでは、聴取された家族歴から遺伝学的背景を理解するための基本的な知識を提供したうえで、我々の地域で実践している“プライマリケア遺伝診療”を紹介し、家族をがんから守るためにプライマリケア医と遺伝医療担当者が連携する上で生じた問題点と解決策について議論したい。</p>	